

## 令和4年第3回（9月）定例会 総務常任委員会報告書

議案番号	議案の名称	審査結果	採決日
議案第110号	宝塚市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	同意 (賛成多数)	9月8日

### 審査の状況

① 令和4年 9月 5日 (議案審査)

・出席委員 ◎富川 晃太郎 ○田中 大志朗 梶川 みさお 北山 照昭  
寺本 早苗 となき 正勝 中野 正 村松 あんな

② 令和4年 9月 8日 (議案審査・委員会報告書協議)

・出席委員 ◎富川 晃太郎 ○田中 大志朗 梶川 みさお 北山 照昭  
寺本 早苗 となき 正勝 中野 正 村松 あんな

令和4年第3回(9月)定例会 総務常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第110号 宝塚市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

議案の概要

次の者を宝塚市教育委員会委員として任命しようとするもの。

石井 克馬

論 点 なし

<質疑の概要>

問1 候補者選定の経緯は。

答1 今回は保護者枠ということで、教育長や副市長とも相談しながら市長が候補者を選定した。

問2 提出された候補者の活動内容などの資料だけで、教育委員にふさわしいかどうかの判断は難しいと考えるがどうか。

答2 これまでの、同様の議案審査の際にいただいた意見を参考に資料をまとめたもの。資料作成に当たっては、候補者の意見も伺いながら、できるだけ理解していただきやすいよう、しっかりまとめてきたつもりである。

問3 任命の動機は。

答3 これからの宝塚市の教育の推進あるいは教育改革にとってどういった方を選ぶか、市長も人選の重要性は認識している。教育関係については、教育長と定期的に現状や課題を協議しており、その中で今回の人選もなされたと考えている。提案に当たっては、市長も保護者や教育委員会など様々なところから情報を収集した中での人選であると認識している。

問4 これまでの教育委員の中で、任期途中で辞任するケースが複数見られるが、これについて当局の認識は。

答4 任期4年間をしっかりと務めていただきたいという思いはある。任命の際に見極める必要があるが、一方で人選の難しさもある。本人の意向もしっかり確認しながら議会の同意を得る必要があると考えている。

問5 保護者枠については、教育委員が高齢化し、硬直化して活性化しない、保護者という当事者感覚、世代の感覚など、現役の保護者と直接関わることができる人が望ましいと考えている。他市では、様々な方が関わられるよう一期で交代していく場合もあるが、本市の考え方は。

答5 保護者枠については、選定時の候補者の子どもの年齢などもあり、どうしても一

期となる場合もあるが、御本人の実績や委員会での活動など、宝塚市の教育のために一緒に頑張っていたら継続もあり得ると考えている。

問6 今回の任命により女性の教育委員が20年間で初めて1名になるが、市の見解は。

答6 今回の人選に当たっては、まずは保護者として、審議を活発にし、経験を生かし活躍してくださる方ということで選定し、結果的に男性であった。

問7 様々な審議会の委員についても、一定割合で女性を入れることで決定してきた。それでも、候補者が優れた見識を持って活躍していただけると提案されたと思うが、やはり男女の割合について、指標として持つ必要があるのではないか。

答7 教育委員の人選に当たっては、今の御意見も含め幅広く検討しながら選任していくよう、話はしている。そういった視点を持って、これからも提案できるようにはしていきたい。

問8 教育への政治的介入を防ぐため教育委員会制度ができたが、近年、総合教育会議などもあり、大分変わってきているため、より政治的中立を踏まえないといけないと考えるがどうか。

答8 教育委員選任の話をする際、まず、一番最初に教育委員の政治的中立性についての話をした。そのことについては、常にどなたであっても最初に話をし、確認を取っている。

自由討議 なし

質 疑

問9 昨今の教育の重要課題の中で、学校、教職員の組織風土の改革という大きな問題がある。教育長を中心に取り組んでいるところだと思うが、この件に関し、候補者はどのように考えているか聞いているか。

答9 候補者は、学校の状況をよく把握しており、学校の組織風土についての課題も認識されていた。PTAやまちづくり協議会などでの活動の中で教育現場を見て、教員の負担が大きく、子どもたち一人一人と向き合うことが十分にできない状況ではないかと感じておられる。教員が余裕を持って、子どもたちの個性を大切に、主体的に学校運営に参画するような風土をつくれば、多様な学びを実現でき、内部外部にも風通しのよい開かれた学校になっていくことができる。教師がそのような姿勢で学校教育に取り組めるようにするには、どのようなアプローチをしていくのか、地域や保護者の力をどのように生かしていくのか。そういったことを考えていきたいとの思いをお持ちであると聞いている。

討 論

**(反対討論)**

討論1 提出のあった資料だけでは、責任を持って判断することができない。それが、この議案に反対する最大の理由である。教育委員会とは、市内の小・中学校の教育上の問題について、責任を持って審議する場だと理解しており、委員を選ぶためには、もう少ししっかりした判断材料と判断基準があつてしかるべきだと思う。委員を選ぶプロセスがあまりに不透明過ぎる、ブラックボックスである。市長の言葉を借りるならば、もっとオープンにするべきと考える。

**(賛成討論)**

討論2 選考過程について、不透明だという意見があつたが、教育委員の任命について、宝塚市議会はかなり慎重な立場で取り上げてきた。委員会に付託して質疑、確認をした上で、選んできた経緯がある。質疑を十分にすることによって、どんな人物なのか、どんな能力をお持ちなのかを見極めることが、プロセスと考えている。プロフィールや候補者の思いなどを資料で提出されるようになって、幾らでも質疑をする機会はある。審査は十分すればいいが、それぞれが、できる限りの調査をする、それも議会の責任かと思っており、賛成としたい。

討論3 反対討論の中で、選考の過程が不透明というような指摘があつたが、たとえ、当局がもっと詳細に情報を持っていたとしても、個人情報に当たる部分を出せないことは当然のことである。

今回、資料が提出されているが、この内容についても、個人情報に係る部分があるのではないかと思えるほどの資料である。過程が見えないからといって反対すると、人事案件全て反対しないといけなくなってしまう。今出されている情報、質疑を聞いて、十分、教育委員として頑張っていただけではないかと判断し賛成する。

**審査結果** 同意（賛成多数 賛成6人、反対1人）